

科目分類	統合分野	開講年次・時期	3年次 4月～11月		
科目名	看護管理	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師 (実務経験)	看護師(看護管理者) 医師(外科勤務) 専任教員	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

1. 看護実践者としてマネジメントの視点を活かすための、看護管理学とその基盤となる知識を学ぶ。
2. 国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力や文化を考慮した看護について学ぶ。
3. 国際救援ならびに開発協力における看護師の活動について学ぶ。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	導入演習 ・テキストから、関心がある部分を選ぶ。 ・発表場面で、フィードバックを受けること、 リーダーシップを体験する。	講義・一部討議等	
	2	看護制度の変遷 管理とリーダーシップの概略	講義	
	3	看護を組織として提供するための基礎知識 組織とチーム、集団の特性、規範、文化	講義	
	4	看護管理の実際① 管理のプロセスと資源 リーダーシップとフォロアーシップ	講義	
	5	看護における安全管理① 看護の対象者のための安全管理	講義	
	6	看護の質保証	講義	
	7	看護管理の実際②演習 「観察できた、あるいは自ら経験できた リーダーシップ」の振り返り、発表	講義	
	8	看護における安全管理② 看護提供者のための安全管理	講義	
	9	人材育成とキャリア開発	講義	
	10	社会の変化と看護制度・政策	講義	

1 1	国際看護学 国際看護学とは グローバルヘルス	講義、DVD	
1 2	国際協力のしくみ 多様な文化と看護	講義 事例学習	
1 3	看護の国際協力活動 国際看護活動の展開、開発協力と看護	講義、DVD	
1 4	国際看護の実際	グループワーク	
1 5	試験		

◆教科書・教材

- ・ナーシング グラフィカ 看護管理 メディカ出版
- ・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学, 医学書院(単元:国際看護)
- ・系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論 (医学書院)
- ・DVD 国際看護第1~4巻

◆参考文献

- ・看護に活かす基準・指針・ガイドライン 日本看護協会出版会 2016年
- ・公衆衛生がみえる第1版, メディックメディア
- ・南裕子;国際看護学, 中山書店
- ・新体系看護学全書 看護の統合と実践③ 国際看護学, メヂカルフレンド社
- ・近藤麻里;知って考えて実践する国際看護, 医学書院

◆成績評価の方法

筆記試験 100%

科目分類	統合分野Ⅱ	開講年次・時期	3年次 5月～12月		
科目名	災害看護	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師 (実務経験)	大学教授 専任教員	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分100点

◆学習目標

1. 災害に関する認識を深め、災害看護の基礎的知識について理解する。
2. 災害が人々の健康生活に及ぼす影響を理解する。
3. 災害発生時の社会の対応や仕組みを理解する。
4. 災害時に看護が果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。
5. 災害時における勤労者看護について考えることができる。
6. 災害が人々の健康や暮らしに影響を及ぼすことを理解し、被災者の健康や生活上のニーズに応じた看護を実践するために必要な基礎的知識・技術を習得する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	授業ガイダンス 災害看護の始まり Ⅰ 災害看護の基礎知識 1. 災害看護の定義・分類	講義 グループワーク (情報科学室)	実際に起きた災害を調べて発表用資料を作成する。
	2	2. 災害の種類と健康被害 災害の種類、健康障害、災害関連死 災害と感染防御	グループワーク発表 講義	発表後、レポート提出
	3	3. 災害医療の特徴 4. マスギャザリングとNBC 災害への対応 5. 災害と情報 6. 災害対応に関わる職種間・組織間連携 7. 災害看護と法律 8. 近年の災害における課題と対策	講義	
	4	Ⅱ 災害看護の基礎知識 1. 災害看護の定義・役割・対象 2. 災害看護の特徴と看護活動 Ⅲ 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義 DVD	
	5	1. 急性期・亜急性期 1) 避難所とは 2) 避難所の立ち上げと被災者の受け入れ 避難所設営紙上シミュレーション	グループワーク	
	6	2. 慢性期・復興期	講義 DVD	

		仮設住居者の健康・生活支援		
7		3. 静穏期 1) 病院防災としての備え 2) 地域防災	講義 グループワーク、発表	地元の防災計画 非常持ち出し品と備蓄
8		十字の災害救護活動 東日本大震災、熊本地震での救護活動の実際 国際救援活動と看護	講義	日本赤十字社のホームページを参照
9~10		災害時に必要な看護技術 トリアージとは、トリアージカテゴリー、トリアージタグ、トリアージの実施場所、トリアージ実施者、トリアージの方法	講義・演習	教科書 (pp. 95~102) を読んでくること
11		応急処置 三角巾を使った応急処置の方法、止血など	講義・演習	教科書 (pp. 312~323) を読んでくること
12		被災地の病院における初動態勢の構築	講義・演習	
13~14		災害とこころのケア 被災者と遺族のこころのケア	講義・演習	
15		試験		教科書 (pp. 149~165) を読んでくること

◆教科書

- ・日本赤十字社 事業局看護部編集 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学，医学書院
- ・DVD①1.災害の状況と看護ニーズ(5' 50" )、2.災害直後の看護(14' 46" )、②目で見える災害看護 VOL2(19' 20" )
- ・DVD③実践編「災害看護への取り組み」3.災害中長期の看護(16' 24" )

◆参考文献

- ・災害看護—寄り添う、つながる、備える—、学研 ・小原真理子; 演習で学ぶ災害看護, 南山堂
- ・野中廣志; 実践! 災害看護—看護者はどう対応するのか—, 照林社
- ・勝見敦・小原真理子編集; 災害救護—災害サイクルから考える看護実践—, ヌーヴェルヒロカワ

◆成績評価の方法

筆記試験 100%

科目分類	統合分野	開講年次・時期	2年次 4月～3月		
科目名	看護研究	単位数	1単位	時間配分	看護研究の基礎:15時限 ケーススタディ:15時限
担当講師 (実務経験)	専任教員	講義時限	28時限	試験時間・配点	1時限(45分)・100点

◆学習目標

単元:看護研究の基礎

1. 看護研究の意義と目的について理解できる
2. 文献検索とクリティークの視点について理解できる
3. 調査研究、実験研究、事例研究、質的研究の特徴が理解できる
4. 看護研究の一般的な進め方が理解できる
5. 研究計画書の概要が理解できる
6. 看護研究における倫理的配慮が理解できる

単元:ケーススタディ

1. 研究計画書が立案でき、計画的に研究を進めることができる
2. 実習での看護過程を振り返り、看護の実践と理論を照合し、分析・考察することができる
3. 研究を発表することの意味と発表の方法がわかる

	回	授業内容	授業方法	事前課題・その他
授 業 計 画	1	<b>単元:看護研究の基礎</b> 1. 看護研究とは 1)看護研究とは何か 2)なぜ看護研究を学ぶのか 3)看護研究の歴史 2. 看護研究のはじめ方 1)リサーチクエスチョン(研究上の問い)とは 2)リサーチクエスチョン決定までのプロセス	講義	<b>【2回目までの課題】</b> ★リサーチクエスチョンを設定しよう
	2	3. 文献レビューとその方法 1)情報と科学的な根拠 2)文献とその種類 3)文献レビューとその目的 4)文献検索の方法 5)文献の入手と整理 6)文献の読み方「クリティーク」とは	講義	<b>【GW課題】</b> ★リサーチクエスチョンを精練しよう
	3	4. 研究デザイン 1)質的研究デザインと量的研究デザイン 2)研究デザインの種類と選択 5. データの収集 6. データの分析 7. ケースレポート・事例研究の進め方 8. 研究における倫理的配慮	講義	

	4	ケーススタディとは 1)計画と実施 2)看護実践からケーススタディへ	講義	【低学年学習支援と連携課題】 ★基礎Ⅱの事例で 研究計画書を作成し よう
	5	原著論文をクリティークしてみよう	講義	【夏期休暇課題】 ★原著論文を書い てみよう
	6	夏期休暇課題を用いてグループワーク	GW	
	7	グループワーク発表	発表	
	8	紙上試験 (45分)	試験	
	9	単元:ケーススタディ ケーススタディの概要説明・ケーススタディ推敲	講義	
	10	研究計画書の作成	各自取り組み	
	11	エピソード・研究計画書についてグループワーク	グループワーク	
	12	ケーススタディの各自取り組み	各自取り組み	
	13	ケーススタディの各自取り組み	各自取り組み	
	14	抄録作成について	講義	
	15	プレゼンテーション(発表)について	講義	
	16	ケーススタディ発表	発表	

◆教科書

- ①系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)
- ②わかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)
- ③看護学生のためのレポートの書き方教室 (照林社)
- ④看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (学研)

◆参考文献

- ①黒田裕子の看護研究 Step by Step 第4版 (医学書院)
- ②看護研究サポートブック 改訂3版 (メディカ出版)
- ③レポート・論文の書き方入門 第3版 (慶應義塾大学出版会)
- ④看護における研究 (日本看護協会出版会)
- ⑤看護研究の進め方 論文の書き方 第2版 (医学書院)

◆成績評価の方法

筆記試験

最終的に、ケーススタディの合格を持って単位修得となる。

科目分類	統合分野	開講年次・時期	3年次4月～12月		
科目名	統合看護技術	単位数	1単位	時限数	30時限 *3単元合わせて
担当講師 (実務経験)	臨床工学士(臨床経験あり) 専任教員	講義時限	28時限	試験時間・配点	筆記試験2時限(90分) 100点 *3単元合わせて

◆**科目目的** 既習の知識を統合し、対象の状態に応じた看護技術を安全に実施できる。

◆**科目目標**

1. 医療システムの中の危険要因を知り、診療補助技術(および生活行動援助技術)における事故防止のための知識・技術を習得できる。
2. ハイリスク環境下で安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。
3. 実施した場面を振り返り、観察力や思考力を習得できる。
4. 演習を通して知識・技術・態度を振り返り、自己課題を明確にできる。

	回	授業内容	授業方法・使用教材	課題・備考
臨床工学士	第1回	1、ME機器の取扱いについて ・医療機器の基本 ・取扱い注意点 ・輸液ポンプの取扱い ・シリンジポンプの取扱い ・生体情報モニタの説明 ・人工呼吸器の概要	講義 演習 * 事前に資料配布	看護技術に関するテキストのME 機器に関する該当ページを復習し、配布資料に目を通したうえで講義に参加しましょう。
	第2回	2、医療機器の操作実習 ・シリンジ/輸液ポンプの操作体験実習 ・生体情報モニタの実際の動作 ・人工呼吸器の体験	各実機を用いて、全員に操作体験してもらう。	
授 業 計 画  前半 専任教員①	第1回	★科目のガイダンス～佐々木担当分の10時限を中心に I. 医療安全に関する基礎知識の復習 II. 危険の種類によるインシデントと事故防止対策 1. 与薬(内服、注射・点滴)	講義 P. P使用 使用テキスト① ②	★Iは、2年次講義の「看護関係法令：看護事故事例」で学習した、 <b>序章・第1章(テキスト①p2～p37)を復習した上で講義に参加して下さい。</b>
	第2回	2. 輸血 3. 経管栄養 4. ライン・チューブ・カテーテル関連 5. グリセリン浣腸 6. 転倒・転落 7. 食事関連 8. 入浴介助	講義 P. P使用 使用テキスト① ②	★II. 危険の種類によるインシデントと事故防止対策に関しては該当する看護技術について復習した上で講義に参加して下さい。 ★II. 1～8の危険の種類について、テキスト①②の該当ページを読んだ上で講義に参加して下さい。
	第3回	III. 医療安全に活かすKYT 1. KYTとは 2. 実習中のインシデント事例からKYTの体験 3. 演習の説明	講義 P. P使用 資料配布 DVD視聴 グループワーク	★ <b>第4回目までの課題</b> ①事例についての学習をしたうえで参加する。 ②事例に関する課題の提示
	第4回	4. 事故防止に向けた状況判断と実施 1) 2事例のロールプレイ 2) KYTの実際 3) 記録シートのまとめ	≪演習≫ ロールプレイ グループワーク	★各グループ2事例について実施する。講義開始時間から即スタートできるように各グループ準備する。 ★記録シート提出： <b>講義終了後</b>
	第5回	5. グループワーク結果発表 6. 質疑応答と補足説明	≪発表・説明≫ P.P 使用も OK	
	第8回	5. 筆記試験 *2単元合わせて45分1時限		
後半 専任教員②	第1回	<b>オリエンテーション</b> 1. 本単元の目標・課題、タイムスケジュール、方法の説明 2. 演習事例の紹介(3事例) 3. 事前学習の説明 4. 記録用紙、SBARについて説明 5. 学生の役割として以下について事前に決めておく	講義	協同学習に向けた個人の取り組み： 各事例で起こりえる状態・状況の変化について予測し、観察点を含めた看護について事前に学習する。

第2、3回	各事例の個人ワークを持ち寄り、予測される状況と看護について協同学習を行う	協同学習	
第4回 *1時限	<b>【演習課題】</b> 1. 直面した状況に対してアセスメントし、必要な看護を実施する。援助の終了後はリーダー看護師にSBARを意識して報告を行う。 2. 実施後はその場でカンファレンスを行い、メンバー全員でその時の状況、考えたこと、実践したことを振り返り、知識や技術をより深める。	演習：シミュレーション学習	
第5回	カンファレンスの内容を基に、全体会での発表に向け、発表資料やデータの作成に取り組む。	演習	
第6、7回	<b>全体会</b> 1. 事例ごと、カンファレンスの内容に基づいた発表 2. 質疑応答 3. 意見交換等	演習	
第8回	<b>まとめ</b> 看護実践能力について、新人看護師に向けた心構えなど	講義	
第9回	<b>筆記試験</b>		

#### ◆使用テキスト

- ①医学書院 系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践②  
②医学書院 医療安全ワークブック 第3版

#### ◆使用教材（ビデオ・DVD）

- ①クリニカルKYT 第1部 クリニカルKYTのすすめ方・いかし方 安井電子出版 24分

#### ◆参考文献

- ①医学書院 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 2008年  
②インターメディカ 写真でわかる看護安全管理 2007年  
③MCメディカ出版 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全  
※その他、基礎看護技術Ⅰ～Ⅵで使用したテキスト  
④阿部幸恵：臨床実践力を育てる！ 看護のためのシミュレーション教育 2013年 医学書院  
④阿部幸恵：看護のためのシミュレーション教育はじめの一步ワークブック 第2版 2016年 日本看護協会出版会

#### ◆担当教員よりひとこと

- 本科目は、看護の統合と実践の分野に位置づけられ、既習の知識・技術を統合し、チーム医療の中で看護師としての役割を理解することをねらいとしている。その中で統合看護技術は、医療安全において看護をマネジメントできる基礎的能力を養うとともに、対象の状態に応じた看護技術を安全に実施できることを目的としている。前半の講義は、リスク感性を磨き、いかに援助実施前に想像力を働かせ起こる可能性の危険を見抜き、事前に防止策を立てるための知識・技術・態度を身につけます。2年次後半に受けた『医療安全』に関する講義での学びを土台に、更なる実践的思考へと発展させます。
- 本単元での学びは、3年生のロングラン実習に臨む上で必須の知識・技術・態度です。12月の統合看護技術後半の講義では、3年間の知識と体験を統合させ、安全で科学的根拠に基づいた看護実践能力と、継続的に学習する姿勢を養います。よって統合看護技術は、解剖生理学、疾病と治療、病理学、感染症学、薬理学、治療論、臨床栄養、看護学概論、基礎看護技術、各看護学、臨床看護総論、看護関係法規、リハビリテーション、看護管理など、これまで学習してきた多くの科目と関連、統合させていくことで本科目の目的・ねらいが達成されます。さらに統合看護技術を修得するためには、『知識・技術・態度』の全てが必要であり、受身の講義では身に付きません。自ら学ぶ姿勢をもち、多くの科目と関連させ、『考える』思考を意識的に働かせることを期待します。
- 「統合分野」は、それまで学習してきた知識や技術を統合し、実践力を向上させ卒業後の臨床にスムーズに適応させることをねらいとしています。卒業後は日々刻々と変化する状況の中で、自ら判断し行動していく看護実践力が求められます。4月からはよいよ看護師です。学生（看護基礎教育）時代の最終段階における自分自身の看護実践力について評価し、自己課題を明確にした上で卒業して欲しいと思います。本単元での取り組みを通して解剖生理学、疾病と治療、病理学、感染症学、薬理学、治療論、臨床栄養、看護学概論、基礎看護技術、各看護学、臨床看護総論、看護関係法規、リハビリテーション、看護管理など、これまで学習してきた知識を活用することを期待します。本単元での学習が国家試験においても役立つものとなります。

#### ◆成績評価の方法

前半 臨床工学士：30点（筆記試験） 専任教員：70点（講義参加態度、課題への取り組み、演習参加態度で10点+筆記試験60点） ※以上を合わせて100点満点とし、60点以上で後半講義の受講資格が得られる

後半 グループでの取り組み（協同学習、全体会の発表）：10点 レポート（今後の自己課題）：15点  
筆記試験：25点 以上合計50点のうち、30点以上で及第とする。